



別記様式 2 - 2 号

視 察 研 修 等 報 告 書

令和 6 年 1 0 月 1 0 日

坂井市議会

議 長 戸 板 進 殿

会 派 名	創政会
報 告 者	林 豊 夏

1. 日 時 令和 6 年 1 0 月 3 日 (木)

2. 視察研修先 インテックス大阪

3. 視察研修内容 E D I X 関西 2024

4. 参加者 林 豊 夏

5. 内容詳細

EDIX 関西 2024 は、教育に関する最新の技術やトレンドを紹介する展示会で、西日本最大級の教育総合展です。インテックス大阪で開催され、教育 DX や ICT 機器、業務効率化に関するさまざまな製品やサービスが展示されます。この展示会の目的は、学校や教育機関が ICT を活用して学習環境を向上させることです。特に、GIGA スクール構想に関連した取り組みや教育データの利活用に焦点を当てています。また、参加者は多様なセミナーを通じて教育のデジタル化や最新の教育技術について学ぶことができます。

【セミナー】 教育 DX ・教育データ利活用の現状と今後の展望

講師：木村敬子（文部科学省総合教育政策局参事官/教育 DX 推進室長）

① 背景

GIGA スクール構想が進展する中、日本の教育現場は急速に ICT 化が進んでいます。このセミナーでは、教育データを活用した教育のデジタルトランスフォーメーション (DX) についての現状と今後の課題が説明されました。特に、1 人 1 台の端末環境を活用し、データを教育に役立てる方法が議論され、木村氏は今後の教育改革における DX の役割とデータ利活用の重要性を強調しました。

② 内容

・教育 DX の進展状況

GIGA スクール構想により、ほとんどの学校で児童生徒が端末を使う環境が整備されています。今後は、これを「どう使うか」に焦点を移し、デジタル技術を通じて教育を質的に向上させることが求められます。データの利活用により、教師が児童生徒の学習進捗をより細かく把握し、個別指導や支援を効果的に行うことが期待されています。

・教育データ利活用の現状と課題

教育データの利活用に関する調査では、全国のエducational委員会の約 8 割が教育 DX を推進する意向を示していますが、自治体間での進捗には大きな格差があります。多くの自治体がデータ活用を進めるための人的・経済的リソースが不足していることが課題です。データ分析とダッシュボードの活用の一部の先進的な自治体では、CBT (Computer-Based Testing) や学習管理システムを用いた教育データ分析が実施されており、教育現場での指導の質を高めるために活用されています。クラスごとの学習進捗を可視化するダッシュボードの導入により、児童生徒の成績や学習態度を把握し、きめ細かな指導が可能になります。

③ 教育 DX の今後の展望

教育 DX を推進するためには、データ活用に関する共通基盤の整備が急務です。教育データの標準化を進め、全国の自治体が共通のシステムやツールを活用できる仕組みを整えることが目指されています。特に、教育現場におけるデータリテラシーの向上が重要であり、教員がデータを効果的に活用できるよう支援が行われるべきです。

④ 結論

教育 DX の推進により、教育の質的向上や業務効率化が期待されますが、データ利活用の進展には地域差があり、その差を埋めるための支援が必要です。教育データの利活用は、児童生徒一人ひとりに対するきめ細かな支援を実現するための重要な手段です。今後は、教育委員会や学校現場が抱える課題を踏まえた具体的な取り組みが求められます。

6. 所見・感想等

教育のデジタルトランスフォーメーション (DX) について非常に興味深く、有意義な内容が盛りだくさんでした。特に、ICT の活用が教育現場での効率や質の向上につながる点が強調され、具体的な事例が紹介されていた点が印象的でした。GIGA スクール構想の進展とその意義が詳しく説明され、全国的に 1 人 1 台の端末環境が整備されたことにより、教育データの収集と活用が進んでいる現状が明らかになりました。

一方で、地域間での ICT 環境の格差や教員のデジタルスキル不足といった課題も浮き

彫りになりました。これらの課題を解決するためには、地域や学校ごとの特性を考慮した取り組みが必要であり、さらなるサポート体制が求められると感じました。

総じて、教育の未来を見据えた取り組みや ICT の効果的な活用法について多くの知見を得られるセミナーでした。これからの教育環境をどう整えていくか、具体的なアクションにつなげていくことが重要だと改めて認識しました。

坂井市の教育における ICT の活用推進について、今後はデータの収集や利活用方法を積極的に進めていく必要があります。また、教員のデジタルスキル向上が重要な課題として挙げられます。具体的には、ICT 環境の整備を進めるとともに、データを効果的に活用するための体制を整えることが求められます。

さらに、教員向けの研修を充実させ、デジタル技術を活用した教育方法を学ぶ機会を増やすことで、教員のスキル向上を図ることが不可欠です。これらの取り組みを通じて、坂井市の教育環境をより充実させていくことが期待されます。

7. 添付書類



会 派 内 供 覧